



共栄小だより

〈年度の重点〉 「主体的に学び、共に考え、やり抜く子どもの育成」

旭川市立共栄小学校 学校通信 令和5年度 第4号 令和5年6月30日

人と人との心をつなぐあいさつ

旭川市立共栄小学校長 鎌田 昌記

1学期がスタートしてから3ヶ月が経ちました。早いもので今年度の活動の4分の1を終えたことになりました。その間、それぞれの子どもたちが、着実に成長している姿が見え嬉しく思っています。

4月当初にはあどけなさが残っていた1年生も、今では学校生活にすっかり慣れ、生き生きとした表情で毎日を過ごしています。また、6月初めには6年生が修学旅行で登別方面へ、そしてつい最近では5年生が美瑛へ宿泊研修に出かけ、どちらも充実した楽しい時間を過ごしてきました。普段と違って教室を離れ、物事を実際に見たり聞いたりしての学習や、学級や学年の仲間と寝食を共にする様々な経験を通して、多くの気付きや学びがありました。それらを今後、様々な場面で生かしてくれればと願っています。

ところで、1学期のスタートの際に「あいさつ一番共栄っ子を目指そう」と私から子どもたちに話をしたところですが、6月の全校朝会の時に改めて、「さらに元気で良いあいさつをしていこう」と呼びかけました。朝の登校時に玄関で顔を合わせる時、多くの子が元気よく大きな声で「おはようございます！」とあいさつをしてくれます。しかし中には、せっかくあいさつをしているのに声が小さくて伝わらない子や、こちらから声をかけるとようやく返してくれる子、また、何かおもしろくないことがあったのか全くあいさつをしない子も見られます。これはとても「もったいない」ことだと私は感じています。良い人間関係作りの入り口を自分から閉ざしかねないからです。

あいさつは、する方にもされるほうにも、たくさんの良い効果をもたらします。あいさつは、人の心に幸福感や喜びを与えます。あいさつをされて悪い気分になる人はまずいません。また、あいさつをされた場合、自然と返すのが普通ですが、これは、良いことをされるとそれを返したくなる「返報性」によるものです。この返報性により、あいさつはお互いの心に喜びをもたらすのです。また、あいさつをする時、人は無意識のうちに笑顔になります。そしてその笑顔が相手に安心感や高揚感を与えます。また、あいさつはより良い人間関係をもたらします。会話を始める時に、まずあいさつから始まるのはそのためです。相手を尊重し、互いの思いや考えを理解し合う第一歩となるのです。また、あいさつができるかどうかは、その人に常識が備わっているかどうかの判断材料の一つになります。社会人としての重要性の一つに、きちんとしたあいさつができることがあげられることは言うまでもありません。

こうしてみると、あいさつの重要性和奥深さを再認識するとともに、人としての基盤作りの時期である幼少期に、「あいさつの習慣をしっかりと身に付けさせる」ことがとても大切なことに改めて気付かされます。

そしてその習慣形成は、学校だけでできるものではありません。ご家庭においても、家族との「おはよう」「行きます」「ただいま」「おやすみなさい」などのやりとりや、来客への「こんにちは」や「さようなら」などの基本的なあいさつを大事にしたいものです。その際には、親自身が率先して子どもに言葉をかけたり、親が来客にあいさつしている姿を見せたいものです。そして、子どもが自分からあいさつをしてきた時には、大きな声と笑顔で返してあげることがポイントです。あいさつは人と人との心をつなぎます。「いつでも、どこでも、誰とでも、何度でも、あいさつができる子ども」の育成に向け、ご家庭と連携していきたいと願っています。

安心して学べる環境づくりに努めています

6月22日の4年生を皮切りに、水泳学習がスタートしました。水温や塩素濃度、室温、そして学年に応じた水深などをこまめに管理しています。また、授業では複数体制で絶えず監視に努めるとともに、低学年では子どもたちの見守り等を行う、ボランティアの保護者のご協力もいただくなど、子どもたちが安全に取り組めるように配慮しながら学習を進めています。



1年生初のプール学習の様子
笑顔一杯で楽しんでいます